

表紙モノ語り

竹夫人

国名：大韓民国

1995年収集

標本番号：L513（データベースには未登録）

くほ まさとし
久保正敏

民博 文化資源研究センター

一見すると竹カゴに見えるこれは、韓国のチュクプイン（竹夫人）。抱き枕の一種で、暑くて寝苦しい夏、これを抱くとひんやりとし、風通しも良いので涼しく眠れる。しかしエアコンが普及した現在の韓国ではあまり使われず、土産用のアイテムとなっている。

抱き枕はもともと、蒸し暑い中国南部地域でタケや籐で作られ、夾膝（きょうしつ）とよばれていたが、北宋時代の政治家・詩人の蘇東坡が、漢の武帝の寵姫の一人の名前を借りて竹夫人と命名したと伝えられている。竹夫人はその後、東南アジアやインドなどにも広がった。植民地拡大の時代、ジャワを植民地としていたオランダ人が竹夫人を使うのを見て、イギリス人が、商売敵オランダをからかう言葉のひとつ

として竹夫人をタッチワイフと英訳した、との説もある。

日本にも伝わって竹婦人（ちくふじん）とよばれ、夏の季語として俳句にも登場する。蕪村や子規の句もあるが、最近では、性具としてのタッチワイフにからめる句が多い。

ところで、この円筒状の形は、カーボンナノチューブの原子構造によく似ている。これは、炭素の層状結晶が髪の毛の一万分の一ほどの大きさの円筒形になったもので、金属以上の熱伝導性、ダイヤモンド並みの強度、非常に大きな表面積などの特徴をもち、ナノテクノロジーの新素材として期待されている。六角形の網目の頂点に炭素原子が位置する結晶層が継目なく繋がり、筒の両端が閉じる部分では、五角形や七

角形の網目構造をもつところも、竹夫人や竹カゴにそっくりだ。

このように、自然科学の対象と人文社会科学の対象のあいだに意外な類似性が見られるのは、今号の特集である総研大の目指すところと相通じるかも知れない。

